

日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金

JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

2022年度、当基金は設立13年目となりました。いまだコロナ禍の対応に追われる社会のなかで活動を続けられているのは、みなさまからのご支援のおかげです。2022年は、ウェブサイト上で21年度認定地の紹介ページを作成するほか、各地の山岳地保護活動に助力してきました。日本の山岳環境を次世代に引き継ぐために尽力して参りますので、今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

新たに2地域／団体を日本山岳遺産に認定

2020年より続く新型コロナウイルス感染症の蔓延は、今なお日本全国のイベントに影響を与えています。コロナ禍で日本山岳遺産認定への応募が集まるのか、事務局では心配もありました。しかし、8月末の締め切りまでに2つの団体から申請を受け付け、アドバイザーボードの助言のもと、下記の2地域／団体を新たに認定することとしました。

認定団体には来年度の活動に供する助成金を今年度末（2023年3月末）に支給し、山と溪谷社／日本山岳遺産基金の雑誌やウ

ェブサイトなどのメディアを通じて活動を支援していきます。今年度の2地域の認定により、当基金が認定した日本山岳遺産は全国44の地域／団体となりました。

それぞれの認定地と認定団体の活動は次ページに詳しく掲載しています。また例年、年に1回行ってきました「日本山岳遺産サミット」については、コロナ禍の情勢を鑑みつつ、開催の可否、開催しない場合の代替案等を含めて検討中です。ウェブサイトの情報更新にご注目ください。

2022年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

- ① 櫛形山(山梨県)／櫛形山ネットワーク
- ② 小金沢シオジの森(山梨県)／シオジ森の学校
- ③ 乙女高原(山梨県)／乙女高原ファンクラブ
- ④ 石鎚山(愛媛県)／久万高原町
- ⑤ 早池峰山(岩手県)／早池峰にゴミは似合わない実行委員会
- ⑥ 九州中央山地五家荘エリア(熊本県)
／泉・五家荘登山道整備プロジェクト
- ⑦ 夕張岳(北海道)／ユウバリコザクラの会
- ⑧ 七時雨山(岩手県)／七時雨ロマンの会
- ⑨ 臥龍山(広島県)／芸北自然保護レンジャー
- ⑩ アボイ岳(北海道)／アボイ岳ファンクラブ
- ⑪ 金華山(宮城県)／特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
- ⑫ 船窪岳(長野県・富山県)／船窪小屋・道しるべの会
- ⑬ 大台ヶ原大杉谷(三重県)／公益社団法人大杉谷登山センター
- ⑭ 吾妻山(福島県)／吾妻山自然倶楽部
- ⑮ 嶺ノ峰(長野県)／長野県大町岳陽高等学校山岳部
- ⑯ 徳本峠(長野県)／古道・徳本峠道を守る人々
- ⑰ 南木曾岳(長野県)／南木曾山士会
- ⑱ 三嶺(高知県・徳島県)／三嶺の森をまわるみんなの会
- ⑲ 美瑛富士(北海道)／山のトイレを考える会
- ⑳ 嘉穂アルプス(福岡県)／嘉穂三山愛会
- ㉑ ニッ森(秋田県)／一般社団法人白神コミュニケーションズ
- ㉒ 岩手山(岩手県)／岩手山地区パークボランティア連絡協議会
- ㉓ ミツ峠(山梨県)／ミツ峠ネットワーク
- ㉔ 霧ヶ峰(長野県)／霧ヶ峰草原再生協議会
- ㉕ 入笠山(長野県)／入笠ボランティア協会
- ㉖ 伯耆大山(鳥取県)／グラウンドワーク大山蒜山
- ㉗ 大雪山・黒岳(北海道)／一般社団法人大雪山・山守隊
- ㉘ トムラウシ山(北海道)／新得山岳会
- ㉙ 飯豊山(山形県・新潟県・福島県)
／特定非営利活動法人飯豊朝日を愛する会
- ㊀ 鹿沼市・岩山(栃木県)／機動パトロール隊
- ㊁ 高田大岳(青森県)／十和田山岳振興協議会
- ㊂ 大笠山(富山県)／五箇山自然文化研究会
- ㊃ 伊吹山(滋賀県・岐阜県)／伊吹山を守る自然再生協議会
- ㊄ 比叡山・比良山地(滋賀県・京都府)／比良比叡トレイル協議会

- ㊅ 脊振山系(福岡県・佐賀県)／脊振の自然を愛する会
- ㊆ 鋸山(千葉県)／金谷ストーンコミュニティー
- ㊇ 信越トレイル(長野県・新潟県)
／特定非営利活動法人信越トレイルクラブ
- ㊈ 金剛山(大阪府・奈良県)／金剛鍊成会
- ㊉ 山王山(長崎県)／新上五島町荒川郷
- ㊊ 竜ヶ岳(三重県)
／竜ヶ岳自然環境保全推進委員会、竜ヶ岳登山道整備の会
- ㊋ 京都北山・芦生の森(京都府)
／一般社団法人 芦生もりびと協会
- ㊌ 鈴岳(宮崎県)／フォレスト・マントル上鹿川

①～㊌は2021年度までに認定の日本山岳遺産

- ㊍ 大雪山 旭岳(北海道)
東川町大雪山国立公園保護協会



- ㊎ 鹿鳴越連山(大分県)
一般社団法人
ひじ町ツーリズム協会

2022年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

新たに認定した2つの日本山岳遺産、それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容を紹介します。

北海道 大雪山・旭岳

認定団体

東川町大雪山国立公園保護協会

山の概要 1969年4月設立。北海道の中心部に位置する大雪山国立公園の東川町域をはじめ、東川町全域を対象エリアとした各種自然環境保全活動、山岳遭難防止活動、及び持続可能な滞在型観光のシステム構築に関して必要な事業を行うことを目的として、様々な活動を継続している。また、登山道修復、ヒグマ問題、トイレ問題やアイヌ文化推進等に着眼したワークショップを計画。次世代の担い手となる大雪山愛護少年団やボランティア等の育成にも注力している。

認定団体の概要 大雪山国立公園に位置する旭岳は、北海道の最高峰であり活火山。高山植物の種類に富み、群落も広大であることから、国指定特別天然記念物となっている。また、大型哺乳類や高山蝶、猛禽類など、北海道固有の希少な野生動物の生息地である。

歴史的な面からは、大雪山周辺を生活の場としていたアイヌの人々が大雪山を神聖な存在として崇め、この地を神々の遊ぶ庭（カムイミントラ）と呼んで尊崇と畏怖の対象として大切に扱ってきた背景がある。

認定理由 日本を代表する国立公園の維持に不可欠な活動を評価。また、行政との協働による事業体制をとっており継続的な活動が期待される。



自然探勝路の清掃活動の様子

大分県 鹿鳴越連山

認定団体

一般社団法人 ひじ町ツーリズム協会

山の概要 鹿鳴越連山は、主峰・セツ石山を中央に、西に経塚山、東に城山や百合野山などが並ぶ大分県日出町と杵築市山香町の境に連なる山。登山道である東鹿鳴越道は、殿様が駕籠に乗って通った道「殿様道」、西鹿鳴越道は、フランシスコ・ザビエルが通った道として知られる。鹿鳴越連山から眺める眺望は、別府湾や海越しの高崎山、鶴見連山や由布岳などを臨む絶景スポットが多数ある。低い標高で咲くのが珍しい経塚山のミヤマキリシマが有名。

認定団体の概要 1989年8月設立。鹿鳴越連山トレッキングマップの作成、ルートの調査、登山道整備、登山ルート案内のためのガイド養成講座の実施、里山の持つ魅力的で豊かな自然を伝えるため地域の小学3、4年生を対象とした座学や自然観察会を定期

に行っている。鹿鳴越連山を自然保護にかかる子どもたちへの次世代育成の場として活用している。今後の事業の継続性を鑑み、2021年6月にひじ町ツーリズム協会内に里山を愛する会を発足させて活動中。

認定理由 児童を中心に地域住民を対象とした自然観察会や自然環境セミナーなどを定期的に実施しており、次世代育成の点でも評価。



登山道整備の様子

2021年度認定団体 活動報告

2021年度に日本山岳遺産地に認定された山域／団体から、今年度の活動報告をいただきました。

■ 竜ヶ岳（三重県） 認定団体 竜ヶ岳自然環境保全推進委員会、竜ヶ岳登山道整備の会

7月2日（土）、日本山岳遺産の認定報告会を三重県いなべ市の宇賀溪観光協会の観光案内施設で開催。同会の会員たちが集まり、映像や写真パネルを使った新しい登山道整備工法の紹介やこれまでの活動を振り返り、日本山岳遺産認定の報告を行いました。翌3日の日曜日には、助成対象となった竜ヶ岳緊急時避難小屋建設のための資機材の歩荷を開始。雨のなか21名が参加しました。

■ 京都北山 芦生の森（京都府） 認定団体 一般社団法人 芦生もりびと協会

「秋の日帰りトレッキング 芦生の森を歩こう」を9月25日（日）に開催。9家族小学生10名中学生1名の参加がありました。芦生の森の最初の1滴がある源頭部を歩くガイドツアーを開催。各グループのガイドが動植物や森の成り立ち、植生と食害について解説し、実際に触ってみるなど五感を使いながらゆっくりと歩きました。源頭部から峠（杉尾峠）に上がると、日本海を見下ろすことができました。

■ 鉾岳（宮崎県） 認定団体 フォレスト・マントル上鹿川

認定地の鉾岳を含む鹿川10座を紹介するリーフレットと、団体のホームページを作成しました。リーフレットは、アウトドアショップやコミュニティセンター、地元キャンプ場、主催の自然観察会等で配布しています。過疎地域でメンバーの高齢化が進み、次世代継承が大きな課題です。エリアの魅力や活動情報を発信することで新たなサポーターの獲得を期待しています。

[第2回]

日本山岳遺産基金×ヴィブラム 登山道整備プロジェクトを実施



×



イタリア発の高性能ソールメーカー、ヴィブラムジャパンと協働で「第2回 日本山岳遺産基金 × ヴィブラムジャパン 登山道整備プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは、ヴィブラムジャパンが国内で登山道整備を行っている団体に資材・物品購入費、輸送運搬費などを拠出。当基金を通じて助成を希望する団体を募集・選考し、協働して支援していく活動です。ヴィブラムでは持続可能な環境保全活動である「ザ・サスティナブル・ウェイ」への挑戦を優先事項としており、その活動の一環として登山道保全を大きな課題と考えています。同プロジェクトでは、2022年2月10日から4月30日まで助成先団体を募集。その結果、「RUN & BEER Forestry (東京都新宿区)」と「小谷村山案内人組合 (長野県小谷村)」と「一般財団法人 白山観光協会 (石川県白山市)」の3団体に助成をすることが決定しました。

■ 東京都・御岳山 認定団体 RUN & BEER Forestry

認定団体の概要 タレントで東京都青梅市の御岳健康大使でもある福島和可菜さんが主宰しているランニングサロン、「RUN&BEER」のメンバーを中心に活動している。御嶽駅から正面右側に見える山の山頂までを「ラニヘッドトレイル」と名付け、2020年8月からそのエリアの登山道整備を行ってきた。

整備の内容 このトレイルは、旧登山道にもかかわらず獣道のように鬱蒼と草木が生い茂っている状態だったが、同団体の地道な整備活動により通行可能となった。今回の助成では、刈払機、チェーンソーなどの機材を購入し、「近自然工法」を用いて自らの発想力や技術の向上を図りながら、効率的に刈払いや足場の補修、倒木除去、看板設置等の登山道整備を行った。



山の材料を用いる「近自然工法」で階段を施工

■ 長野県・白馬岳周辺域 認定団体 小谷村山案内人組合

認定団体の概要 構成人数約40名。約100年の歴史を持ち、北アルプス界隈のガイド業を行なうことと並行して、登山道の整備も長年にわたり継続的に行なってきた。

整備の内容 白馬岳周辺は多くの登山者が訪れるため、登山道周辺が荒れやすい。今回の助成金を利用して、白馬大池ルートへの整備を実施した。傾斜が急で荒れやすい乗鞍岳までの区間を、「近自然工法」を利用して、水の流れを意識した道の修繕を行なった。また、本ルートは最初の尾根筋に出るまでが斜面に作られているため、雪による浸食を受けやすく崩れやすいので、尾根筋を通る新道を検討しており、その下見も実施した。



水の流れを考慮して丸太を斜めに配置

■ 石川県・白山 認定団体 一般財団法人 白山観光協会

認定団体の概要 1948年に設立。日本百名山の一つに数えられ、信仰の山としても知られる霊峰・白山の観光資源を保護・開発するとともに、施設の整備を図る。

整備の内容 白山山頂へ向かう三禅定道の一つ「旧越前禅定道」の一部である杉峠など県境付近の登山道整備は、かつては地域のボランティア団体によって整備されていたが過疎高齢化により継続的な整備が困難な状態で、歴史ある登山道の整備体制が喫緊の課題となっていた。ヴィブラムジャパン登山道整備プロジェクトの助成によって2022年10月に白山観光協会のメンバー6名で倒木や支障木の処理、笹などの草が茂っている箇所を草刈りを実施した。



旧越前禅定道の登山道整備で倒木除去を実施

三県を結んでオンライン開催、北アルプス安全登山アピール

富山、長野、岐阜県の自治体や同県警担当課で構成される「北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議」が、安全登山啓発活動の一環として「北アルプス安全登山アピール」を、昨年同様、オンライン形式で実施、本イベントを当基金が後援しました。より多くの人が視聴できるように、今年は7月7日（木）の晩に開催。各県警の山岳遭難救助隊などが統計データからわかる遭難事故の傾向や実際の遭難事例を映像で紹介しながら、夏山シーズンに向けて安全登山のために知っておきたい知識を解説しました。



実際の救助の様子などが上映

コロンビアスポーツウェアジャパンが GEARLOOP MARKETでの売上を当基金に寄付

当基金の賛助会員である株式会社コロンビアスポーツウェアジャパンが、10月22日（土）に東京・代々木公園で開催のアウトドア系フリーマーケットイベント「GEARLOOP MARKET（ギアループマーケット）」に出店、同社社員のアウトドアウェアやグッズの放出・販売による売上金、191,600円全額が寄付されました。また、当日のブースには募金箱も設置。ブースを訪れた多くの人たちから12,115円の募金が集まるとともに、当基金のパネルやパンフレットを眺めながら、次世代のために日本の豊かな山岳自然を保護・継承していく活動に関心を示してくれました。



コロンビア社のブースは盛況となった

本の買取金を寄付 日本山岳遺産基金がチャリボンのパートナー団体に

日本山岳遺産基金は2022年3月より株式会社バリューブックス（以下、バリューブックス）が提供する支援サービス「charibon-チャリボン」のパートナー団体となりました。チャリボンは、不要になった本などを送付し、その買い取り金額をさまざまな分野で社会的な課題解決に取り組んでいる団体（NPO・学校・自治体など）に寄付することができるサービス。インターネットを中心に古本の買取・販売を行ってきたバリューブックスが、古本リユースの仕組みを活用して運営しています。

charibon
by VALUE BOOKS



組織（2022年12月20日現在）

■正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■会長

川崎深雪（株式会社山と溪谷社 代表取締役会長）

■副会長

二宮宏文（株式会社山と溪谷社 代表取締役社長）

■監事

中村健一（株式会社インプレスホールディングス）

■事務局長

吉野徳生（株式会社山と溪谷社）

■特別会員

公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■法人賛助会員（50音順）

株式会社アライテント
株式会社コロンビアスポーツウェアジャパン
株式会社システム・クリエート
株式会社千秋社
株式会社総合サービス
株式会社トラベルギャラリー
有限会社穂高岳山荘
北海道地図株式会社
株式会社モンベル

■個人賛助会員

1名

■アドバイザーボード

下野綾子（公益社団法人日本山岳会、東邦大学准教授）
田中文男（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会顧問）
西本武志（元日本勤労者山岳連盟会長）
野口 健（アルピニスト）
山川陽一（公益社団法人日本山岳会）

2021年度収支報告

前年度繰越金…………… 14,414,647円

収入

会員費……………650,000円
協力金等……………1,000,000円
寄付金等……………998,708円
その他……………100円
収入合計…………… 2,648,808円

支出

プロモーション費……………92,810円
イベント費用……………0円
基金運営費……………148,550円
助成金…………… 3,650,000円
支出合計…………… 3,891,360円

収支……………▲1,242,552円

次年度繰越金…………… 13,172,095円



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内

TEL 03-6744-1900（代表） FAX 03-6744-1928

https://sangakuisan.yamakei.co.jp/ e-mail: kikin_info@yamakei.co.jp

発行＝2022年12月20日